

FOR IMMEDIATE RELEASE

60th
ANNIVERSARY

Japan, the U.S.
& Beyond!

ジャパン・ソサエティー(JS)
舞台公演部 60周年記念

日本国外初演

プロジェクトIXープレイアデス

Project IX - Pleiades

20世紀の巨匠クセナキスの大曲『プレイアデス』を、21世紀のイディオムで舞台作品へと再構築！

演出／振付 ルカ・ヴェジェッティ
演奏 (パーカッション) 加藤訓子^{くにこ}
ダンス 中村恩恵^{めぐみ}

2014年5月2日、3日
全2回公演

於: ジャパン・ソサエティー内 劇場
(333 East 47th Street, New York, NY 10017)

JS 舞台公演部の60周年記念シーズンの最終プログラムは、国際的に活躍する二人の日本人アーティストとイタリア人振付家との3者協働によって生み出される新作——『プロジェクトIXープレイアデス』と題する複合舞台です。20世紀を代表する奇才の作曲家ヤニス・クセナキスの作品の中でも最も演奏が難しいとされる6名の奏者のための打楽器曲『プレイアデス』と、打楽器のソロ曲『リボンド』を、ルカ・ヴェジェッティ(演出・振付け)・加藤訓子(打楽器奏者)・中村恩恵(ダンサー)の3名が、ライブ・パーカッション&ダンス&映像からなる《マルチメディア劇場版》として再構築。4月19~20日にKAAT 神奈川芸術劇場での世界初演が行なわれた後に米国に渡り、JS劇場にて5月2日、3日の二日間、日本国外初の公演を行ないます。『プロジェクトIXープレイアデス』は、日本と米国と世界をつなぐコラボレーション作品を中心に据えてきた60周年記念シーズンの、最後を飾るに相応しい、まさに画期的なインターナショナル・コラボレーションです。

演出を担当するルカ・ヴェジェッティは、現代音楽への振付けや舞台演出にはつとに定評のあるイタリア人振付家です。コロンビア大学のミラー劇場で発表したクセナキスのオペラ『オレスティア』の劇場版が『NYタイムズ』に絶賛された他、昨年はマーサ・グラハム・カンパニーにカイヤ・サーリアホの曲に振付けた新作を提供。また今年5月末にはニューヨーク・フィルハーモニックが新たにスタートさせるフェスティバル「NY フィル・バイアニュアル」の中でも、細川俊夫作曲のオペラの演出を手がけています。一方、パーカッション奏

者の加藤邦訓子は、現代音楽祭の最高峰、ダルムシュタット国際現代音楽祭でのクラニヒシュタイン賞の受賞者です。スティーブ・ライヒの代表作を独自に編曲した2011年のCDは、ライヒ自身から「第一線のパーカッショニスト」と絶賛されました。さらに、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターの元カンパニー・メンバーで、オランダの名誉あるゴールデン・シアター・プライズなど多数の受賞歴を持つダンサーの中村恩恵が、全60分の本作品『プロジェクトX—プレイアデス』を、ヴェジエッティの振付けでソロで踊り抜けます。

『プロジェクトX—プレイアデス』は、パフォーマーが舞台上で繰り広げるライブの粋とテクノロジーの粋を合体させたマルチメディアの作品です。6名の打楽器奏者のために作曲された大曲『プレイアデス』の各パートを演奏する加藤訓子のハイレゾ録音を音源に、独立した6パートとしてライブ・サウンド・インスタレーションの音場が作られます。さらに、ヴェジエッティの振付けを踊る中村恩恵と、加藤のパーカッション映像の6面映像とが交錯。終盤には、加藤のライブ・ソロ・パーカッション『リボンド』に、中村のライブ・ソロ・ダンスと中村自身の踊る映像が絡んで、高揚のうちに幕を閉じる——というヴェジエッティならではの演出です。

【リスティング・インフォメーション】

『プロジェクトX—プレイアデス』 ルカ・ヴェジエッティ・加藤訓子・中村恩恵

日時： 5月2日(金)午後7時30分
5月3日(土)午後7時30分

チケット料金： 一般 \$30 / JS 会員 \$24

ボックスオフィス： 212-715-1258(月曜～金曜 午前11時～午後6時 / 土日 午前11時～午後5時
またはJSウェブサイト www.japsociety.org

会場： JS内劇場 (333 East 47th Street, New York, NY 10017)

【プロフィール】

ヤニス・クセナキス Iannis Xenakis (1922-2001)

ルーマニア生まれのギリシャ系フランス人作曲家。20世紀の生んだもっとも重要な作曲家のひとりとして位置づけられている。またル・コルビュジェの事務所に在籍して確かな実績を残したほど、建築家としての才能も豊かだったことでも知られている。エンジニアでもあったクセナキスは、パリ音楽院にてオリヴィエ・メシアンらに師事して作曲を学び、後に数学の理論を用いた作曲法を開発。自ら実践して鮮烈な影響を現代音楽界に投げかけた。また電子音楽や、コンピューターを用いた作曲のパイオニアでもあり、確立論的手法で多くの斬新な作品を生み出している。日本の大阪万博では、「ヒビキ・ハナ・マ」(響き、花、間)という日本語の題を持つ多チャンネル360度の再生装置を伴う電子音楽を発表している。生涯を通じて多作家で、170曲以上の作品を残している。

ルカ・ヴェジエッティ Luca Veggetti

イタリアのボローニャで生まれ、I.Glowacka と G.Popescu 師事のもとミラノ・スカラ座で経験を積む。ロンドン・フェスティバル・バレエ、ペンシルベニア・バレエ、バレエ・シカゴのダンサーとしてのキャリア後、コリオグラファーとしてピエル・ルイジ・ピーチとのコラボレーションを開始。1999年 Санктペテルブルクのマリン

スキーでキーロフ・バレエへ招聘された 20 世紀最初のイタリア人コリオグラファーである。NYシティー・バレエ団の芸術監督ピーター・マーティンスの招きで同団附属のアメリカン・バレエ学校のために新作を振付ける他、NYのシーダーレイク現代バレエ団、モルフォシス・ダンス・カンパニー、ミルウォーキー・バレエなど、多くのバレエ団やダンス・カンパニーからの新作委嘱を受けている。日本では、細川俊夫のオペラ『班女』の日本版プロダクションの演出を手がけ、東京サントリーホールにて初演され新たなステージデザインが高く評価される。今年5月末にはニューヨーク・フィルハーモニックが新たにスタートさせるフェスティバル「NY フィル・バイアニュアル」の中でも、細川俊夫作曲のオペラの演出を担当。来年1月には、広島能楽堂での新作発表が予定されている。

加藤訓子 かとう・くにこ

桐朋学園大学研究科修了とともに渡欧。ロッテルダム音楽院を首席で卒業。日本を代表するパーカッションリストとして内外で活躍。ソロ以外でもアンサンブル・ノマド、サイトウキネンオーケストラ、アンサンブル・イクトウス(ベルギー)など国内外のグループへ参加。ダルムシュタット国際現代音楽祭クラニヒシュタイン賞等、受賞歴多数。2011年5月ソロアルバム「kuniko plays reich」を英リンレコードより世界同時発売。同年のベストアルバムに選出される。また、ベルギーのアンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル率いるダンス・カンパニー「ローザス」を始め、中村恩恵、岩淵多喜子、伊藤キム等、振付家との協働プロジェクトも多数。2012年トヨタコリオグラフィーアワードのゲスト審査員を務める。第12回(2012年度)佐治敬三賞受賞。パール楽器・アダムス社(蘭)インターナショナルアーティスト。米国在住。www.kuniko-kato.net

中村恩恵 なかむら・めぐみ

第17回ローザヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞を受賞後、フランス・ユースバレエ、アヴィニオンオペラ座、モンテカルロバレエ団を経て、1991年から99年イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターに所属し活躍。退団後はオランダを拠点に活動し、2000年自身振付ソロ作品『Dream Window』でGolden Theater Prizeを受賞。2001年彩の国さいたま芸術劇場にて、キリアン振付の一晩もののソロ作品『ブラックバード』を上演、ニムラ舞踊賞受賞。2005年『A play of a play』発表、ソロ作品『One6』をオランダにて上演。2007年に日本へ活動の拠点を移す。ダンサーと振付家の活動を両立し、Noism07「Waltz」(舞踊批評家協会新人賞受賞)、Kバレエカンパニー「New pieces」にて『黒い花』を発表する等、多くの作品を創作。また『The Well-Tempered』『時の庭』『Shakespeare THE SONNETS』等、首藤康之との創作活動も積極的に行っている。2011年に第61回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。2013年に横浜文化賞を受賞。

取材申し込み:

上記公演の取材をご希望の方は、事前に必ずプレス担当:塩原/ジャウエットまでEメールで(kshiobara@japansociety.org / siowett@japansociety.org) お申し込みください。尚、プレス席には限りがございます。満席の場合はご容赦ください。

*『プロジェクト区-プレイアデス』は野村財団、朝日新聞文化財団からの支援を受けています。

*同公演後の「MetLife Meet-the-Artists レセプション」は、**MetLife 財団**の援助を受けています。

加藤訓子の使用楽器はパール楽器製造株式会社とAdams社の製品です。

* 2013-14 年度のJS舞台公演部は、以下の財団・基金・企業および個人より支援・後援をいただいています。

MetLife Foundation(企業スポンサー)

Doug and Teresa Peterson
Mr. Kenneth A. Cowin
Dr. John K. Gillespie
The Fan Fox and Leslie R. Samuels Foundation, Inc.
Dr. and Mrs. Carl F. Tausch II
Mr. Richard Royce
Howard and Sarah Solomon
Ms. Hiroko Onoyama
Ms. Kumiko Yoshii
Mr. Terry Brykczynski and Ms. Andrea Miller
Mr. Norton Belknap
The Globus Family
Geoffrey Paul Gordon and Nicole A. Gordon
Dr. Stephen J. and Mrs. Michiko Levine
Mr. James C. Nolan+
Mr. Michael Romano
Mr. Alex York
Paula S. Lawrence
anonymous donor

New York State Council on the Arts with support of Governor Andrew Cuomo and the New York State Legislature
New York City Department of Cultural Affairs in partnership with City Council

Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund
Endowment for the Performing Arts (Doris Duke Charitable Foundation の率先と The Globus Family,
京セラ株式会社, The Starr Foundation, トヨタ自動車株式会社の協力によって設立)

全日空 (国際渡航便協力)

ヤマハ株式会社のピアノはJSの公式ピアノです。

+ deceased

* JS 舞台公演部 60 周年を祝い、以下の企業より特別支援をいただいています。(3 月 20 日現在)

Dentsu Network

Mitsubishi Corporation (Americas)

Sumitomo Corporation of America

Toyota Motor North America, Inc.

Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ

Canon U.S.A., Inc.

Citi

ITOCHU International Inc.

Marubeni America Corporation

Mitsubishi Heavy Industries America, Inc.

Mitsui & Co. (U.S.A.), Inc.

Mizuho Bank, Limited & Mizuho Securities USA Inc.

Nomura Holding America Inc.

ORIX USA Corporation

SMBC

Sojitz Corporation of America

WL Ross & Co. LLC

Daiwa Capital Markets America Holdings Inc.

IHI INC.

Kaneka Americas Holding, Inc.

Kawasaki Heavy Industries (USA), Inc.

Tokio Marine Management, Inc.

JS舞台公演部について:

JS舞台公演部は、1953年の創設以来、雅楽・能・歌舞伎・人形劇・三味線や落語などの古典芸能から、最先端の現代劇、実験的な音楽、そしてコンテンポラリー・ダンスまで、あらゆるジャンルの舞台公演を企画し、当館内劇場にて主催・上演。これまで600を超えるプログラムを米国の観客に紹介してきました。また、北米ツアーのプロデュースも手がけることで、日本の優秀な若手アーティストにとっては国際的なキャリアの登竜門として、また米国人アーティストには新作委嘱や交換レジデンスなどを通じてより深い日本理解の機会を与える貴重な機関として、日米の舞台芸術界に比類のない貢献をしています。

JSについて:

JSは、1907年(明治40年)にニューヨークに設立された米国の民間非営利団体です。全米最大の規模を誇る日米交流団体として、両国間の相互理解と友好関係を促進するため多岐に渡る活動を続け、2007年に創立100周年を迎えました。その活動範囲は、政治・経済、芸術・文化、日本語教育など幅広く、各分野での催し物や人物交流などを通じて、グローバルな視点から日本理解を促すと同時に、日米関係を深く考察する機会を提供しています。今日、JSは経済界のリーダー、アーティスト、教育関係者、企業家から学生まで様々な方々を招聘し、日米の個人・法人館員をはじめとする多くの人々を対象に年間100以上のプログラムを提供しています。1907年の創立以来、JSが企画・開催した展覧会、舞台公演、映画上映会、講演会、試食・試飲会、シンポジウム、国際会議、セミナー、ワークショップは数千件にのぼります。